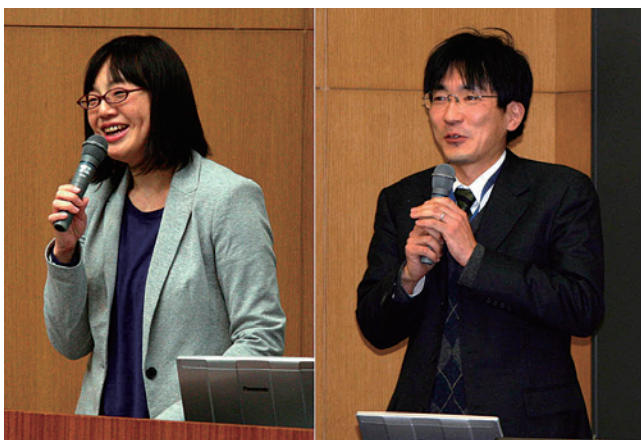


## 第77回防災アカデミーを開催

第77回防災アカデミーが、2月7日(火)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

今回は、松田曜子特定非営利活動法人レスキューストックヤード事務局長により、「災害ボランティアという存在、役割、可能性」と題した講演が行われました。

講演では、松田事務局長が東日本大震災直後から携わっ



講演する松田事務局長（左）と奥野主査（右）

てきた足湯ボランティア養成派遣事業に関し、足湯を通して作られる被災者とボランティアの人間関係の大切さや、足湯を受けた人の生の声を集めて9,000枚近い「つぶやきカード」が作られたことなどが紹介されました。一例として、高齢者が野菜を食べたいとつぶやいたことから、新燃岳噴火の被災農家より提供された野菜を調理して避難所に配る「たべんさいプロジェクト」が立ち上がったことを紹介し、各被災地で必要とされることに対し、自由に発想して支援することが重要であると強調しました。一般市民など110名が参加し、盛況のうちに終了しました。

また、1月13日(金)には、第76回防災アカデミーが開催され、奥野真行三重県防災危機管理部地震対策室主査による「『地域発!』地域素材からわがまちの『地震像・津波像』を考える」と題した講演が行われました。講演では、地域にある史跡や史料を通して過去の地震・津波被害を明らかにし、未来に語り継ぐことについて、豊富な実例をもとに紹介されました。さらに伊勢神宮の史料を独自に分析し、南海地震だと考えられていた1361年の康安地震が、実際は東南海地震との連動だった可能性があることと突き止めたこと等について説明がありました。96名が参加し、講演後は活発な意見交換が行われました。